

関係副詞 where が示す脱規範的汎用性

—英語における脱規範性・変則性を生む力についての一考察—*

住 吉 誠

1. はじめに

関係詞の選択は、先行詞となる名詞の性質によって決定されるのが一般的であるが、実例を広く検討すると、名詞の属性はその名詞の一義的な語彙の意味によって決定されない場合もあることが理解される。以下の例を見てみよう。

- (1) If you want to remain part of the single market and the customs union, be open that this would require free movement, rule-taking across the economy and ongoing financial contributions, none of which are, in my view, compatible with the result of the referendum. If you... and if... if you want to leave without a deal, be upfront that in the short term, this would cause significant economic damage to parts of our country who can least afford to bear the burden. (テリーザ・メイ英元首相が2018年12月10日に下院で行った答弁¹⁾) (例文中の下線は筆者。以下同様)
- ((EU 離脱案反対派に対して) 単一市場と関税同盟にとどまりたいのであれ

* 本稿は、科学研究費（基盤（C）：課題番号 20K00673）の援助を受けたものである。ここに記して、お礼申し上げる。

1) この引用例は公開されている動画の音声から直接筆者が書き起こしたものである。

ば、自由な移動は認めねばなりませんし、経済分野全般でルールに従う必要
があります。そして継続的な分担金の拠出が必要です。私が見るところ、そ
のどれもが国民投票の結果とは相いれないものです。もし合意なき離脱を望
むのであれば、短期的には、その重荷に堪える余裕のない地方の人々に大き
な経済的ダメージを与えることを率直に認めなければならないのです。）

下線部の country は our があるため「国」の意味であり、一義的には人（「国民」）
を表さない。ここで who が選択されるのは、parts of our country は本来的には
場所を示し厳密な語義では「人」の意味を持たないが、メトニミー的に「そこに住
む人々」を意味しているためである。このような言語事実は、先行詞の属性は辞書
的語義によって一義的に限定されるものではなく、可變的に捉え得ることを示して
いる。ゆえに、それに応じて関係詞の選択が教科書の規範から解放される。

Declerck (1991: 547) や Huddleston and Pullum (2002: 1050f.) では、関係詞の
where は場所名詞句を先行詞に、関係詞の when は時を表す名詞句を先行詞にと
るとする。(2) に挙げるのは Huddleston and Pullum であるが、(3) や (4)
に挙げる実例に見るように、この「規則」は絶対的なものではない。

(2) a. *Where* takes locative expressions as antecedent.

b. *When* takes a temporal expression as antecedent.

(Huddleston and Pullum 2002: 1050f.)

(3) Overall, the Arctic is warming four times as fast as the rest of the
planet. In mid-March, there was at least one day where temperatures
hit as high as 30°C (54°F) above the March average near the North
Pole. (*Time*, May 23/May 30, 2022)

(全体的に見れば、北極の温暖化のスピードは北極以外の場所と比べて4倍
もなる。3月中旬には北極点近辺で3月平均気温より30度も高くなる日が
少なくとも1日はあった。)

- (4) There is no reason for me to be here and every reason for me to leave. I keep thinking of Darcy's kiss and her awkwardness. It embarrasses us both but she is of an age where rejection can crush. (Michael Robotham, *Shatter*)

(僕がここにいる理由はない。どんなことだって帰っていい理由になる。ダルシーがキスしてきたこと、そのあとの彼女の気まずさを考え続けた。あんなことがあってふたりとも居心地が悪いが、彼女の年頃では、拒絶したらつぶれてしまう可能性だってある。)

一部の英和辞典では、先行詞が age や time の場合に関係副詞 when の代わりに where が使用される場合があることを指摘しているが、後でみるように、(3) の day を含め、時を表す多様な名詞が where を後続させることもある。when と where の交替が age や time に限るような旨の記述は単純化しすぎているきらいがある。

英語の実態を詳細に観察すると、このような典型的文法から解放された脱規範的・変則的表現に出くわす。関係詞選択の複雑な様相は、これまでも指摘されてきた。例えば、Michiels (1975) は、時・場所・手段を表す名詞に後続する場合、文法書が示す関係詞のパタンの容認度に差があることを指摘している。また八木 (2011: 102ff.) は、名詞 case, situation に後続する when や where について論じている。本稿は、上で見たような関係副詞 where と先行詞との意味的齟齬が現れた実例を記述的に考察し、関係副詞 where が示す汎用性を生み出す力を明らかにすることを目的とする。実態を見ると、多くの名詞で関係詞の選択が教科書通りでない場合があることがわかる。

本稿では(3)(4)のような、教科書通りに選択されていない where を「脱規範的 where」と呼ぶ。第2章では手元の実例を挙げながら、脱規範的 where をふたつのタイプ分ける。第3章ではこれらふたつの「脱規範的 where」の使用を動機づける要因を探る。続く第4章で汎用化する where について考えてみよう。

2. 脱規範的 where

脱規範的 where は、19世紀に確立した規範文法とその流れをくむ研究の中で言及されることがあった。仔細に検討すると脱規範的 where の生起環境はその先行詞の意味特性によって大きくふたつに分けることができる。ここでは、規範文法でなされてきた脱規範的 where に関する批判的言及と手元の実例を見ながら、そのふたつのタイプを見ていこう。

2.1 タイプ1：〈時を表す名詞 + where〉

Garner (2016) は、(5) に挙げるように、時を表す名詞に後続する関係副詞 when の代わりに where を使用する誤りが見られるとしている（イタリックは原典通り）。

- (5) Sometimes the locative *where* is misused for the temporal *when*—e.g.: “If ever there was a year *where* [read *when*] athletes burned and raged at close of day, it was this one.” David, Steele, “Aging with Grace, Success,” *S.F. Chron.*, 24 Dec, 2001, at C1. (Garner 2016: 960)

規範的・標準的な英文法の考え方に従えば、確かにこのような where の使用は破格である。しかし記述的な考え方に立てば、このような使い方を「間違い」とするのは行き過ぎであろう。本稿でこのような where を「脱規範的」と呼ぶのは、「規範に従っていない」ということを意味するものであって、それを「誤り」と言っているのではないことに留意されたい。記述的な英語研究の立場では、このような使用も英語の実態の一部として認めなければならない。

そもそも、時を表す名詞の後で where が後続する例は古い時代にも確認されており、関係副詞 when と where の区別はもともと画然としたものではなかったことが理解される。(6) の例では *sommer* (= *summer*) の後で where が使われて

いる。

- (6) The conjunction *where*, primarily local, is often used in a rather loose way in contexts in which *when*, for instance, would sound more natural: (684) this is like the mending of high wayes In sommer, where the wayes are faire enough? (Shakespeare *Merchant of Venice* V.i) (Rissanen 1999: 312) (イタリックや引用番号は原典通り。以下同様)

ここで、筆者の手元にある<時を表す名詞 +where >のタイプの実例を挙げる。

- (7) That means we have a month, maybe sex weeks where he'll be focusing on far too many things at once. (Mike W. Craven, *The Botanist*)

(つまり、我々に許された期間は、彼がたくさんのことを集中的にやる1か月か6週間かくらいですね。)

- (8) In a year where U.S. and Caribbean hurricanes caused a record \$215 billion worth of damage, according to insurance giant Munich Re, no one in the continental U.S. died from storm surge, which traditionally is the No. 1 killer during hurricanes. Forecasters gave residents plenty of advance warning during a season where storms set records for strength and duration. (*Voice of America*, December 30, 2017)

(大手保険会社ミュンヘン再保険によれば、アメリカ・カリブ地域のハリケーンが2150億ドルもの記録的被害をもたらした年に、アメリカ本土で高潮で亡くなった人はいませんでした。高潮は昔からハリケーン時に最多の死者を出すものです。ハリケーンの勢力や期間が記録的なものになる季節の間、予報士たちは住民たちに多くの事前警報を出したのです。)

- (9) Author David Lagercrantz was commissioned to write a fourth novel,

published in 2015, and this time around he delves deeper into the mystery of her childhood where she often witnessed her mother being abused by her father. (*Voice of America*, September 11, 2017)

(著者のダヴィド＝ラーゲルクラントは、4作目の小説を依頼され、それは2015年に出版されました。そして(5作目となる)今回、彼はこのシリーズの主人公の子ども時代の謎を深掘りします。主人公は子どもの時に、母親が父親に暴力をふるわれるのをしばしば目撃していたのです。)

- (10) Now they lived in a time where to hurt someone, it was better to attack through the people they cherished. (Justine Wilson, *Shadow Strike*)

(誰かを傷つけようと思えば、その人が大切にしている人たちを痛めつけたほうがうまく行く、そういう時代に彼らは生きていた。)

- (11) Both exoplanets are “still in their youth,” said study co-writer Stefano Facchini of the European Southern Observatory. He added that the planets were going through a period where their atmospheres are still being built. (*Voice of America*, July 25, 2021)

(ヨーロッパ南天天文台に勤める共著者のステファノ＝ファッチーニは、ふたつの太陽系外惑星は「まだ若い」と述べました。さらに、このふたつの惑星は現在大気が形成されている途中であるとのことでした。)

- (12) Democracy will expand, and there are moments where it contracts. (*Time*, July 4/July 11, 2022)

(民主主義は拡大していくでしょう。また、縮小するときもあります。)

これらの例から、一部の英和辞典が指摘する age や time 以外にも、week, month, year, X-hood, season, period, moment など多様な時を表す名詞が where を従えることが理解される²⁾。

2) 次のような例では、見かけ上<時を表す名詞+where>となっているが、本稿で問題にするものではない。このような例は、ここでの検討に含めていない。

2.2 タイプ2：〈非場所的名詞 + where〉

脱規範的 where のもう一つのタイプを見るには、古い規範文法の記述が参考になる。近代英語期の規範文法の記述をひとつ見てみよう。

- (13) The adverb of place, *where*, is often, but sometimes improperly, used instead of the relative pronoun, and a preposition; as, They framed a protestation, *where* they repeated all their former claims: *that is, in which*. — The king was still determined to run forwards in the same course, *where* he was already, by his precipitate career, too fatally advanced. *i.e. in which he was*. (Mennye 1785: 83)

Mennye は〈前置詞 + 関係詞〉を使うべきところで where を使うのは好ましくないとし、(13) で見たように protestation, course の後では in which を使うべきと指南している。このタイプ2はタイプ1と異なり先行詞は時を表すものではないので、当然ながら when と訂正することはできない。

このような、〈前置詞 + 関係詞〉を where で代用することが好ましくならざるものと判断された理由としては、この where がフランス語の文法を真似たもの (in the imitation of the French idiom) であることが挙げられている (Priestley 1769: 133f.; Murray 1830: 188)。しかし、ここでは、場所の意味を持つ先行詞に続

-
- (i) We're at this point in time where genetic engineering is on the precipice. (*Time*, July 4/ July 11, 2022)

(今、遺伝子工学が危機にあります。)

この例では where は at this point を指しており time は先行詞ではない。また次の (ii) の例では、訳は省略するが、曜日名がイベントの名前になっており、時を表すものではないことに留意されたい。この種の例も検討には含めていない。

- (ii) And an elementary school in Indiana starts the week with Mindful Mondays, where teachers guide their classes in deep breathing. There are also Thoughtful Thursdays, where a student is called on to write a letter to someone working at the school to show that they are thankful. And on Friday Focus students and teachers talk about self-care. (*Voice of America*, September 06, 2022)

くく前置詞＋関係詞>が where で代用されること自体が非難されているわけではないことに注意しなければならない。(13) の protestation, course の後でく前置詞＋関係詞>を使うべきとされるのは、フランス語の文法を真似たということだけではなく、先行詞の意味的特性が本来的に場所を表さないものであるためであろう。(13) の説明中の sometimes improperly (時に不適切に) は、「場所を表さない先行詞の時に」と解釈すべきである。in the same course も物理的な「道」の意味ではなく、抽象的な意味での「(人生の) 進路」の意味である。このタイプ2では、「フランス語の文法を真似てく非場所的先行詞＋where >を使うこと」が問題とされているのである。

現代英語を学ぶ我々にとって、おそらくタイプ2はタイプ1に比べてそれほど違和感がないのではないだろうか。事実、現代の規範文法において、このタイプ2が言及されることは極めて珍しく、記述的な語法書である *Merriam Webster's Dictionary of English Usage* (1992, s.v., *where*) に「in which の代わりに where が使われる場合がある」との言及がある程度である。そこに掲載されている数例を見ると、先行詞は本来的に場所を表さないものである。このような「ゆるやかな規範」の継承はあるものの、タイプ2は、現在では大きな非難を受ける形ではないと思われる。

筆者の手元の例を挙げよう。

(14) If they haven't left the Peloton ecosystem, it's almost certainly because Peloton has signed them to exclusive contracts where they're paying them several million dollars. (*Time*, July 4/July 11 2022)

(インストラクターたちがペロトンのビジネス環境から離脱していないということであれば、それはきっとペロトンが数百万ドルを支払うという独占契約をインストラクターたちと結んでいるからだろう。)

(15) The day following Christmas, the Brits celebrated Boxing Day, a custom where they took boxes of food and clothing to charities and

churches, or goodies and treats to local tradesmen. (Traci Borum, *Painting the Moon*)

(クリスマスの翌日、イギリス人たちはボクシング・デーを祝いました。食べ物や洋服が入った箱をチャリティーや教会に持って行ったり、キャンディーやお菓子を地元の配達人にあげたりする習慣です。)

- (16) I realize that I am less than half awake, in that twilight consciousness where dreams and the real world sometimes intersect. (Dean Koontz, *Odd Interlude*)

(私は、夢と現実世界が時に交差するようなぼんやりとした意識の中で、うとうととしているのに気づく。)

- (17) Unlike computer programming languages, where the braces and parentheses that delimit expressions are actually typed into the string for everyone to see, the branching structure of an English sentence has to be inferred from the ordering and forms of the words alone. (Steven Pinker, *The Sense of Style*)

(誰が見ても一目瞭然であるよう、境界を示す {} や () が一連の文字列にタイプされるコンピュータのプログラム言語と違って、英語の文の枝分かれ構造は単語の並び方と形だけで推測されなければならない。)

- (18) According to the philosopher Gilbert Ryle, a category error is an ontological error where things belonging to one category are mistaken for belonging to another. (Lisa Feldman Barrett, *How Emotions are Made*)

(哲学者のギルバート＝ライルによれば、カテゴリー錯誤とは存在論的錯誤のことで、あるカテゴリーに属するものが別のカテゴリーに属していると錯誤されることを言う。)

- (19) On an exam where the average mark was 63, she scored a perfect 100 per cent. (Mike W. Craven, *The Botanist*)

(平均点が63点のテストで、彼女は満点を取った。)

- (20) There are pulse-release delivery systems that allow different medications to dissolve at different times. This might be useful in complex treatments where the success of one medication is dependent on another already being in the body. (Mike W. Craven, *The Botanist*)

(いろいろな薬を異なる時間に患者の体内に入れるパルス投薬装置がある。これは、別の薬が体内ですでに効いている場合にうまくはたらくような薬を使った複雑な治療の際には役に立つ。)

- (21) Ahead of 2025, the government has released a proposal where biogenic methane and long-lived gases will be priced separately but those prices will be set by the government. (*Voice of America*, October 10, 2022)

(2025年を前にして、政府は有機物由来のメタンと大気中に長期間存在するガスについて別々に課税するという提案をしたが、その税金がいくらになるかは政府が決定する。)

以上のように、タイプ2では、本来的に場所を意味しない、多種多様な名詞が先行することがわかる。

3. 脱規範性・変則性を生む力

3.1 <時を表す名詞 + where >の場合

前節で見たような、関係副詞 *where* の脱規範性・変則性を生む力を解明するための一助として、まず、タイプ1についてコーパスで検証してみよう。

Corpus of Contemporary American English (以下 COCA) で NOUN *where* の形を検索し100位までを見る³⁾と、NOUN の位置に表れている名詞の中に、11の時を表す名詞が確認できる。それを(22)に示す。COCA のリストでは単数形

3) 検索日は2022年10月6日である。

と複数形は別々に表示されるが、ここではまとめて挙げる。

(22) age, day, era, future, moment(s), period, time(s), year(s)

それぞれの名詞のコンコーダンスラインを手作業で確認すると、本稿で取り上げる形とは関係ないもの（where が関係副詞でない例（I didn't know at the time where that photo had come from）など）も含まれていることがある。したがって、100位の中での（22）の名詞の頻度ランクや頻度の実数を示すことは意味がない。

（22）に挙げた名詞に関係副詞 where が後続している例をそれぞれ 30 例ずつ無作為に取り出して⁴⁾、計 330 例の生起環境を検討してみると、いくつかの類型が繰り返し観察される。代表的なパターンを挙げよう。大文字で表記している動詞は時制などの変化する形を含めたレマ形で表示したものと理解されたい。

- (23) a. there IS a time where
b. at a time where
c. LIVE in an age where
d. HAVE times where

このような典型的な表現型は、タイプ 1 の where を示す筆者の手元の例でもある程度確認できる。（7）は have a month...weeks, （10）は live in a time, （12）は There are moments であり（23a, c, d）と類似の表現型であることに注意されたい。（8）の In a year や during a season は使用されている前置詞は異なるものの、表現型の成り立ちとしては（23b）と類似する。（23）に挙げたものは一部であるが、このような目立ったパターンと、比較のためそれぞれのパターンで

4) それぞれの名詞のコンコーダンスで表示されたものを 10 例ごとに 30 例を集めた。例えば time where のコンコーダンスで、1 例目、10 例目、20 例目…というように収集した。

where の代わりに関係副詞 when が生じているもの (there IS a time when など) を COCA で調査した頻度をまとめたのが表1である。

左列に挙げたものから見てみよう。there IS a time (「…という時／時代がある」) や It BE a day (「…という日である」) という、時そのものの内容を記述する形と at a time (「…の時に」) といった、全体として時を表す副詞句の機能を果たすものは、関係副詞 when のほうが優勢であることがわかる。これらの表現では、話者の意識が時そのものに向かうことが自然であり、その意識が when を導く要因として大きくはたらいているのであろう。

次に、age について考えてみよう。age は、「年齢」の意味と「時代」の意味に大別できる。「年齢」の意味では慣習的に at と共起する。「年齢」は時を明確に意識するので、「…の年齢で」を表して副詞句を形成する at an age では when と強く結びつく (at an age when)。「時代」の意味でも、副詞句 in an age (「…の時代に」) では時の意識が前面に出るため when が選択される傾向にある。

(24) At an age when many other people would be in retirement, he gives no sign of ever having heard the word. (COCA)

(他の人達だったら退職するような年齢になっても、彼は「退職」という言葉とは無縁のようだ。)

(25) That seems to be the question of the moment, in an age when one mistake can permanently cement your reputation. (COCA)

(ひとつの間違いがあなたの評価を永久に固定してしまうような時代に、今おっしゃったことは一番重要な質問ですよ。)

表 1：関係副詞 where と when が現れた表現の頻度 (COCA)

There IS a time where	68	HAVE times where	40	BE at the age where	<u>28</u>
Three IS a time when	<u>1834</u>	HAVE times when	51	BE at the age when	20
There ARE times where	232	HAVE moments where	64	of an age where	<u>20</u>
There ARE times when	<u>2667</u>	HAVE moments when	66	of an age when	10
There IS a moment where	76	one of those moments where	78	LIVE in an age where	<u>52</u>
There IS a moment when	<u>188</u>	one of those moments when	64	LIVE in an age when	38
It BE a day where	9			LIVE in an era where	<u>42</u>
It BE a day when	<u>25</u>			LIVE in an era when	23
at a time where	144			GET to an age where	<u>15</u>
at a time when	<u>9061</u>			GET to an age when	3
at the moment where	24			ENTER an era where	<u>12</u>
at the moment when	<u>288</u>			ENTER an era when	6
in an age where	229			MOVE into a future where	<u>20</u>
in an age when	<u>431</u>			MOVE into a future when	0
at an age where	85			toward(s) a future where	<u>16</u>
at an age when	<u>201</u>			toward(s) a future when	2
during an era where	2			IMAGINE a future where	<u>24</u>
during an era when	<u>30</u>			IMAGINE a future when	1
in the future where	36			SEE a future where	<u>39</u>
in the future when	<u>224</u>			SEE a future when	1

一方で、右列の BE at the age, of an age, LIVE in an age, GET to an age では where の方が選択されやすい。これは、動詞の表す意味によって、「…の年齢である」「…の時代に生きている」「…の年齢になる」という、存在や到達点としての場所的意識が前面に出やすく、時としての意識を薄れさせるためと考えられる。

- (26) You're at the age where you're an adult... (COCA)
(あなたはもう大人の年齢です。)
- (27) I know that we live in an age where women are independent, and they have the same rights as men... (COCA)
(女性が自立し、男性と同じ権利を持っている時代に生きています。)
- (28) And it's great because Bella and Conor are getting to an age where they're going to be babysitters,... (COCA)
(いいことですよ。もうすぐベラとコナーはベビーシッターをしてもいいような年齢になるから。)

an era は、第一義的には時を表す名詞句であり、表の左列にある、during an era において when を導くのは不思議ではない。この形は全体として時を表す副詞句として機能するからである。また次の例からわかるように、era と異なり本来的に時ではなく出来事を表すような名詞が後続している場合も when を導く。during があることで pandemic が時の意識を帯びることがわかる。

- (29) Clubhouse was launched during the coronavirus pandemic when people around the world faced restrictions that kept them at home.
(*Voice of America*, May 13, 2021)
(クラブハウスは、世界中の人がステイホームの制限に直面しているコロナウイルスのパンデミック中に発売された。)

このようなことから during が時の意識を想起させやすく句全体で副詞句としての機能を果たすことが、when との親和性を高めていると言える。

表の中列に挙げたものは where と when がほぼ同じような頻度で生じるものである。代表的なものは < have+ 時を表す名詞 +where/when > であるが、これらでは名詞が複数になっていることからわかるように、時そのものというよりは、

「場合」の意味を表す。ひとつ例を挙げる。

- (30) I've had times where I've put some things up against the door just so I would feel comfortable going to sleep at night in a hotel. (COCA)
(ホテルでは夜安心して眠れるように、ドアに何かを立てかけるというようなことがありました。)

このような例では時間的概念としての「時」の内容を説明しているのではなく、「そういうことがあった」という、「場」にでくわした経験⁵⁾を表す。

one of moments は「ひとつの場合」と「瞬間」の意味を表す可能性があり、前者の場合は where を、後者の場合は when と結びつくのが一般的である。

- (31) This is one of those moments where that elevator ride feels really long. (COCA)
(こういう場合にエレベーターに乗っている時間が長いと感じられるのです。)
- (32) It was one of those moments when you just know you're soon going to be dead. (COCA)
(ああ、もうすぐ死ぬのだと思うような瞬間でした。)

しかし、このふたつに画然とした使い分けがないのは頻度が拮抗していることから理解できる。(31) の例では、「場合」と解釈しても「瞬間」と解釈しても大差はない。すなわち、このような表現型では、times/moments に時としての意識を持つ英語母語話者と、出来事が起こる場(場合)としての意識を持つ英語母語話者がおり、このような意識が times/moments に時に where を、時に when を後続させる理由になっていると言える。

5) 日本語の「場合」も「場に出合う」であり、もとは場所が意識されていたと考えられる。

表1の右列の表現型では一転して where の使用が多くなるが、これらは先行する動詞や前置詞の場所的な意味にひかれて、時を表す名詞に「場」としての意識が強く反映されるからだと言える。age は、上でも述べたように「存在する場としての時」「生きる場としての時代」「到着点としての時」である。これらの意識に牽引 (attraction) されて where が選ばれることに不思議はないだろう。enter an era, move into a future, toward(s) a future なども、先行する enter, move into, toward(s) が場所の意識を牽引する要因となっていると考えてよい。

興味深いのは、imagine や see の後に続く future に where が生じる場合が多いという事実である。これらは時間軸上の「時」としての未来ではなく、空想が描かれる頭の中の「映像」を意識していると言える。このような表現において where と when の出現数が、左列に挙げた副詞節として機能する in the future when/where と著しい対照をなしているのも納得のいくところである。

(33) Where are the jobs going to come from in the future when the economy is not growing? (COCA)

(経済が成長しない未来では、仕事はどこからやってくるのでしょうか。)

(34) Imagine a future where no one goes hungry... (COCA)

(誰も飢えることのない未来を想像してみましょう。)

これまで述べたことを他のデータでも確認してみよう。Google Books Ngram Viewer で手に入るデータは、(完全に正確ではないが) 語や表現のある程度の使用割合を確認するのに便利である⁶⁾。そこで、There is a time where/when, imagine a future where/when が使用される割合と、比較のために The time will come where/when の使用割合を調査すると、グラフ1, 2, 3に示す通りと

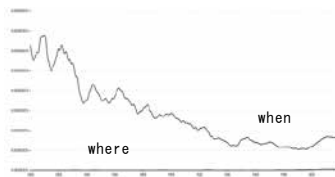
6) Google Books Ngram Viewer については、<https://books.google.com/ngrams/info> を参照されたい。Google がデジタル化した書籍のデータに単語や表現がどの程度生起するかをグラフで表示するものである。検索での結果には、見かけは同じでも調査対象以外の構造も含まれている可能性があるため、ある程度の傾向を読み取るものであることは了解されたい。

なる。各グラフの縦軸は出現する割合を、横軸は年代を示す。また、見やすさを考慮してそれぞれの表現形の表示にわかりやすく手を入れた。

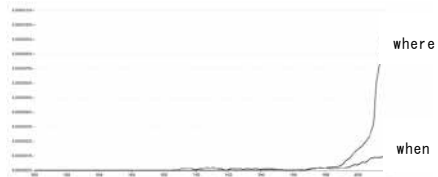
やはり、時そのものの内容を記述する *There is a time* の場合は *when* が後続し、映像の場としての *imagine a future* の場合は *where* が選ばれる傾向にあることが確認できる。また、同じく時そのものの内容を記述する表現である *The time will come* は *when* を選択する。

Google Books Ngram Viewer にみる表現型の傾向

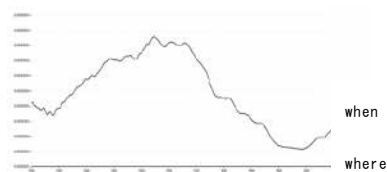
グラフ 1: *There is a time where/when*



グラフ 2: *imagine a future where/when*



グラフ 3: *The time will come where/when*



上で述べたように、COCA からの例の収集はランダムに行ったため、*period* については手元の例の中に特徴的な表現型は確認できなかった。したがって表 1 には *period* を含んだ表現型は挙げていないが、これまで述べた議論の補強のため、ここで *period* についても簡易調査を試みよう。*a period* が *there IS* に続く場合と、場としての意識が強くて *GO through* に続く場合を COCA で検索してみると次のような頻度が得られる。

- (35) a. there IS a period where: 25
b. there IS a period when: 57
- (36) a. GO through a period where: 44
b. GO through a period when: 14

やはり、期間の内容を記述し時の意識が強くなる there IS に続く場合は、時と親和性を持つ when が選ばれ、一方 GO through に続く場合は、経験の場として意識されることで period は where と強い親和性を持つことがわかる。

以上のように、タイプ1の脱規範的・変則的 where を生み出す力は、時を表す名詞の意味が「場」「場所」として強く意識されている場合であると言える。この意識は名詞によって一義的・画一的に決まるのではなく、その名詞と共に使われる表現型の表す意味に応じて濃淡が生じる。当該名詞が使用される表現型の意味や共起する特徴的な動詞の意味が大きく影響し、それぞれの名詞の示す「時」の意識が薄弱になる場合がある。

3.2 <非場所的名詞 + where >の場合

タイプ2として(14)から(21)に挙げた例を見ると、whereに先行する名詞は contracts, custom, consciousness, languages, error, exam, treatments, proposal であり、タイプ1の時を表す名詞群と異なり、個別の名詞を見るだけでは全体的な特徴が見えにくい。タイプ2では、規範的な文献で指摘されていたように、非場所的名詞に本来的に続く<前置詞+which>の代替として where が用いられるものである。これらの名詞には、ほぼすべての場合において in which が後続する。上で触れた *Merriam Webster's Dictionary of English Usage* (1992, s.v., where) の「in which の代わりに where が使われる場合がある」という記述からもそれはうかがえる。

COCAにおいて NOUN in which の形を検索し500位までを見ると、本来的に場所の意味を持たないものに activities in which, agreement in which, behavior

in which, conditions in which, instance in which, plan in which, systems in which などがある（以下の議論と関係するもののみ挙げた）。このような表現型に現れる名詞は、存在論的（ontological）な観点から見れば、(14) から (21) に生じた名詞の上位語になっている。consciousness は the condition of being awake and able to understand what is happening around you (*Longman Dictionary of Contemporary English*, 6th edition (以下 LDOCE6)) であるし、contract は an official agreement between two or more people, stating what each will do (LDOCE6) である。また、language は a system of communication by written or spoken words (LDOCE6) である。辞書的な定義から離れて考えてみても、custom は behavior の一種であり、proposal は plan の一種、treatment は医学的な activities のひとつである。(14) から (21) に生じた個々の具体的な名詞が関係副詞と使われた例の頻度は高くないので、以下の議論では、このような上位語を代替表現として検証してみよう。関係詞の選択が先行する名詞の捉え方に影響を受けることを考えれば、このような上位語の捉え方はそのまま下位語の捉え方に反映されると思われる。

再度 Google Books Ngram Viewer を使用し、上位語のそれぞれの名詞に、in which と where が後続した割合を比較検討してみよう。それぞれの結果をグラフ 4 から 10 に示す。

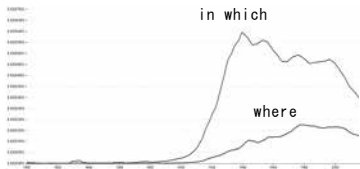
Google Books Ngram Viewers が示すのはあくまでも傾向ではあるが、7つのグラフから、概して時代が下るごとに in which と where の差が縮小していることは指摘できる。すなわち、本来的には<前置詞 + which >を使用すべきとされているところで where が使用されることも増えていると言えるだろう。特に instance, systems は where との強い親和性を示す。

前述したように、このような名詞に關係副詞 where が後続すること自体は、現代英語においてそれほどの規範的制約があるわけではない。これは、それぞれの名詞の表す意味を比喩的に「場」と捉えても無理がないことと関係があると思われる。「状況において」「活動において、活動の中で」「振る舞いの中で」「システムにおい

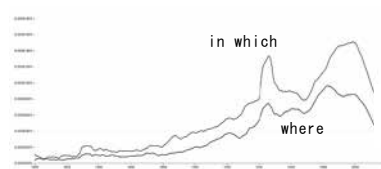
て」などが示すように、日本語でもこれらは意味的に場の拡張として捉えられている。このような比喩的な「場」としての捉え方が、ゆるやかな規範で指摘されるタイプ2の脱規範的 where の動機づけになっていると言えるだろう。

Google Books Ngram Viewer にみる表現型の傾向

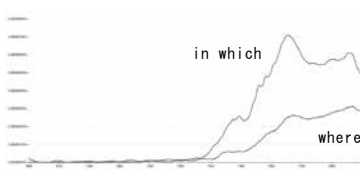
グラフ 4: activities



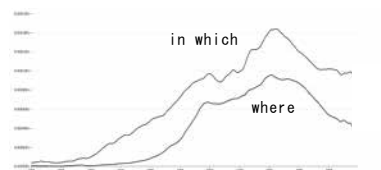
グラフ 5: agreement



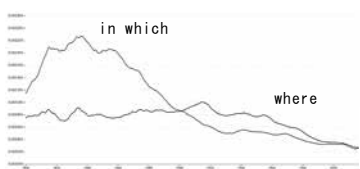
グラフ 6: behavior



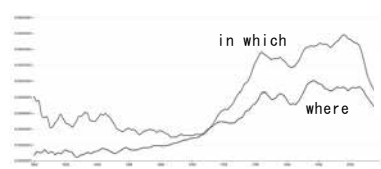
グラフ 7: conditions



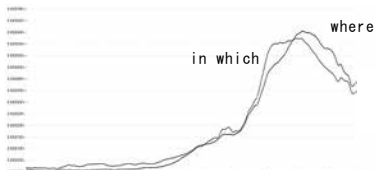
グラフ 8: instance



グラフ 9: plan



グラフ 10: systems



(37) で、relation を指す one に 本来的な in which ではなく where が後続するのも、「関係の中において」という場としての比喩的な意味拡張の支えがあってこそのものである。

(37) And, most importantly, is that the kind of relationships that you want?

One where we barely see each other? (Nicholas Sparks, *Dreamland*)

(一番大事なことを聞くけど、それが、あなたが望む関係ですか。お互いにほとんど会えないような関係を望んでいるのですか。)

4. 汎用化する関係副詞 where

上で示してきたように、先行詞が時を表す名詞であろうが、非場所的名詞であろうが、その名詞の意味を比喩的に「場」と捉えることができれば、関係副詞 where との親和性が高まる。これは、場所的な前置詞が、in July のように時を表す名詞句を後続させたり、in danger のように抽象名詞を後続させたりすると並行的な現象であるとも考えることができる。前置詞 in は場所的な意味を< in+ 場所>→< in+ 時>→< in+ 状態>のように展開させていく (cf. Croft and Cruse 2004: 194ff.)。in danger のような表現では、danger 自体に場所の意味はないが、比喩的に危険な状況の中にいると捉えることが in との親和性を生んでいる。これと同様に、関係副詞 where においても、< 場所 + where >→< 時 + where >→< 非場所的名詞 + where >とその用法を展開させても不思議ではない。時であろうが非場所的名詞であろうが、これらの表す意味が「場」として捉えられれば、when であるべきところに where を、< 前置詞 + which >であるべきところに where を使用するということが起こる。このような現象は、裏を返せば、関係副詞 where の汎用化と言える現象が起こっていると考えることができる。

これに関して、ひとつ興味深い例を見てみよう。Denison (1998) は、以下の例の下線部において、本来は whose headmaster となるべきところであるが、非人

間的先行詞 (one of our new primary schools) を whose で受けることに抵抗感があったため回避的に where を使用したとしている。

- (38) Yesterday afternoon I went to see one of our new primary schools where the headmaster is a friend of mine. (1918 Bell, *Letters* II. 447 (1 Mar.)) (Denison 1998: 278)

日本語でも「その学校の校長が私の友人です」のほうが自然であり、where the headmaster... に相当する「そこで校長が私の友人です」というのは多少違和感を生じさせる。このような多少の不自然さを与えても、人でない先行詞に whose を続けることを回避する意識が、(38) のような形を生んだと言える。

このように、where が他の関係詞表現の代替として用いられる例は、他にも確認される。

- (39) U.S. central bank officials have decided to keep interest rates unchanged at the record low rate where they have been for several years. (*Voice of America*, September 17, 2015)

(アメリカ中央銀行は、ここ数年同様記録的に低い金利を継続することに決定しました。)

- (40) About 40 percent of people will have a relatively mild disease. And we mean that in the sense where they will feel unwell. They'll have a fever. They'll have some respiratory symptoms. They'll have some aches and pains, maybe headache. (CNN, March 12, 2020) (発言者のマリ
ア = ヴァン = ケルコフはアメリカニューヨーク州出身の疫学者)

(40%の人達は比較的軽症でしょう。軽症というのは体調がすぐれないという意味ですよ。熱も出るでしょうし、呼吸器症状もでるでしょう。痛みや頭痛もでるかもしれませんね。)

- (41) The whole situation has become massively polluted over the last 10 years or so, to the degree where the real issue is clouded by huge amounts of organised crime and vandalism. (BBC News, 2 August 2013)
(全体の状況は、ここ 10 年ほどでとてつもなく悪化しました。本当の問題が多数の組織化された犯罪や破壊活動で隠れてしまうほどです。)
- (42) I apologize for answering that question in a manner where I must have come across as insensitive. (CNN, February 19, 2004) (発言者のゲリー＝バーネットはコロラド大学フットボールチームのコーチ)
(思いやりがないと思われるようなやり方で質問にお答えしたのは申し訳なく思います。)
- (43) “I think Xi is going to play North Korea to the extent where he can get something out of the Americans, either on trade or maybe a free hand in the South China Sea. There is a grand bargain waiting here,” Siracusa says. (*Voice of America*, June 21, 2019)
(中国国家主席の) 習近平は、アメリカから何かを得られる程度に北朝鮮を操ると思いますよ。それは貿易においてか、またはひょっとすると南シナ海における行動の自由かもしれません。重要な取引があると思います。)

これらが表す「割合」「意味」「程度」「方法」といった意味は、タイプ1、タイプ2の名詞と比べると比喩的な場所的意識がかなり希薄である。上で挙げた名詞に正規の形で関係詞を続けるとすれば、at the record low rate at which, in the sense in which, to the degree to which, in a manner in which, to the extent to which となる。(39) から (43) の例では、このような<前置詞 + which >の形そのものを、意味に関わらず where で代用したものである。

まず、正規の表現が避けられた理由として、同種の構造の繰り返しを避ける意識がはたらいた可能性を指摘しておこう。正規の表現型は in a manner in which, to the degree to which などのように in や to が短いスパンで繰り返される。こ

のような同種構造の連続を避ける意識は、これまで使用されていなかった新たなパターンを生むひとつのきっかけになることが指摘されている (cf. Rohdenburg 2003; Callies 2013)。上で挙げた例も、その同種構造回避の意識の表れの結果である可能性がある。

一部の名詞では *to the extent that...* や *in the sense that...* のような同格 *that* を使用した表現で同種構造回避が可能ではある。しかし、Huddleston and Pullum (2001: 1053) が指摘するように 中には *that* をとりにくいものもあり (**the manner (that) she handled the situation*)、<前置詞 + *which*> を問題なく代替する *where* の方が、適用可能範囲が広いと言えるだろう。

このような適用範囲の広さは *where* の汎用性を高めていくと考えてよい。次の例の *a tone of voice* は、*extent* などと違い同格 *that* を従えることは難しい。*a tone of voice* には場所的な意味はない。関係詞を続けるのであれば本来的には *a tone of voice in which* となるところであり、(44) においては正規の形を使用すると *in* が連続してしまう (*in a tone of voice in which*)。また、*have* の後でその回避意識がはたらかない (45) においても、<前置詞 + *which*> ではなく *where* が使用されているのは、関係副詞 *where* の、さらに高まった汎用性を示す例と言える。

- (44) When voicing the character, Jim Cummings speaks in a tone of voice where he actually does sound like a recording. (<https://disney.fandom.com/wiki/Gregarius>)

(キャラクターに声を当てる時に、ジム = カミングズは実際に録音したもののよう聞こえる声で話しています。)

- (45) “He had a tone of voice where he was so confident”, says the girl’s mother. (CBC Nov. 15, 2014)

(「彼は自信にあふれた声でした」と少女の母親は言った。)

5. おわりに

本稿では、関係副詞 where の脱規範性・変則性、そしてそれを生み出す要因について考えた。規範文法において批判されていたような環境で where が生じる例は、記述的な立場に立てば、英語の実態の一面を明らかにすることができる興味深い現象である。最後に、本稿で扱った関係副詞 where の脱規範性・変則性とそれに伴う汎用性を考察することが、より大きな問題へつながっていくことを指摘したい。

汎用化する接続詞

疑問副詞では when の代わりに where が使用されるということはありません、how の代わりに that が用いられることもない。つまり疑問副詞の場合には、形と意味の一対一の対応関係がある。しかし、関係副詞の場合は when と where の入れ替わりがあり得ること、where が汎用性を高めて本来的に使用される環境以外でも生起することがあることは、本稿で見た通りである。このような例を見ていくと、where が汎用性を高めていく過程は、その場所的な意味が希薄になっていく過程であると換言できる。

一部の接続詞は、その本来の意味が明確に意識されない、曖昧な使用方法を持っており、他の接続詞が使用できない場所に現れるなどの高い汎用性を示すことがある。次例に見るような接続詞 how はその典型である。

(46) Funny, he thought, how such small gestures could tell so much. (Stephen King, *The Langoliers*)

(彼は、そのようなちょっとしたジェスチャーが多くの意味を伝える場合があるのは面白いと思った。)

(47) ... and there were *nasty* cracks, and jokes about how a coon had got caught in the Grange Hall loft, and about how when a nigger-baby went to heaven and got its little black wings you called it a bat instead

of an angel,... (Stephen King, *The Stand*)

(黒人がグレイジホールのさじきに閉じ込められたとか、黒人の赤ん坊が黒い羽をはやして天に召されたときに、その子を天使ではなく蝙蝠と呼んでいたといった不快な洒落や冗談があった。)

(46) の how は、*Oxford English Dictionary Online* (以下、OED) (s.v., *how*, adv., 10) で記述されているように that とほぼ同義の用法である。つまり、how 本来の「様態」や「手段」といった意味はこの用法では希薄化している。

(48) With weakened meaning, introducing an indirect statement, after verbs of saying, perceiving, and the like: = That. (OED, s.v., *how*, adv., 10)

(47) の例でも、ふたつある how の意味は希薄化していると言える。意味的には全く何の貢献もしないこの how は、前置詞 about の後に生じており、統語的に that と置き換えることも不可能である。特にふたつめの about how... では、how がないと、about when... と続き、about に when 節だけが従っているようにも解釈される（「…したときについての冗談」の解釈）可能性があるなかで、さらに when 節に後続する主節が続くという、非常に誤解を生みやすい構造になっている。その点、how があれば、構造的曖昧性を排除し、about [how [when...] [...]] という形で how が言わば標識として、joke の内容が when 節以下すべてであることを明示できる。前置詞の後に生じるこの how は OED が指摘するような that の代用ではなく、how 独自の用法である。

how がこのように使用されている実態は、本稿で指摘した where の実情と合わせて考えてみると、それぞれの接続詞の本来的な使い方から解放された汎用化⁷⁾ という、より一般性を持った考察へとつながることを示している。

7) 文法化の一種としても扱うことができると思われる。

場所の概念の汎用性

言語は我々の思考のひとつひとつにそれぞれ別の表現型を準備しているわけではなく、既存の表現を比喩的に拡張して「あるものですませる」ことも多い。このような場合に、場所の概念が一番基本的で応用しやすいということがあろう。次の例を考えてみよう。

- (49) She's somewhere in her fifties, and beautifully dressed in that way that people who have become financially independent on the back of other people's financial dependency often are. (Fredrik Backman, *Anxious People*)

(彼女は50代というところだろうか、他人に経済的に依存して自身の経済的自立を保っている人がしばしばそうであるように美しく着飾っていた。)

- (50) Somewhere about that time, although he had no proof whatsoever, Will had an inkling of an idea about who Alice's birth mother might have been.... (Louise Douglas, *The Scarlet Dress*)

(当時いつの頃だったか、まったく証拠はなかったが、ウィルはアリスの生みの親がおそらく誰かなんとなくわかっていた。)

OEDによれば、somewhere は< about/in+ 時間表現 >の形で用いられ at some time の意味を表す。ここで、時間表現であればなぜ somewhen ではないのかという疑問がわく。OED (s.v., *somewhen*) を見ると、古い英語では Somewhen about 50,000 years ago... のような例の存在が確認できるが、今では somewhen 自体がほとんど使われることがない。意味的には somewhen のほうが適切であるようにも思えるが、現代英語では語として使用に耐えられるほどの通用性を喪失してしまっている。そこで、場所的概念を表す somewhere を比喩的に時間表現に使い「あるものですませる」という方策がとられている。

次例の where も回避的に使われた例と考えていいだろう。

- (51) Meghan supports sustainable fashion, explained Holly Rains, digital editor at magazine Marie Claire UK. Her less costly accessories quickly sell out from stores and websites. “The jewelry, the bags... is where we can... get that kind of Meghan touch...,” Rains said. (*Voice of America*, March 22, 2019)

(雑誌『マリークレア UK』デジタル版の編集長であるホリー＝レイNZは、メーガン妃は持続可能なファッションの支持者だと説明した。妃の着けている、お求めやすい価格のアクセサリは実店舗でもウェブストアでもすぐに売り切れる。「彼女の着けている宝石や使用しているバッグは一般人がメーガン妃ほくなれるものなのです」とレイNZは言う。)

この文脈においては jewelry や bags は場所としてのそれではない。強いて言えば、「その宝石やバッグを持てば」ということであろうが、be 動詞に後続する環境では ...is with which... という形が存在しないので、<前置詞 + 関係詞>を代用する where を続けて「あるものですませた」のである。

このような臨時的な使い方を支えるものとして、「場所」の概念は多くの概念の土台、すなわち比喩展開する出発点であることが指摘できる。そのような展開性は、場所を意味する語の汎用性につながっていく。本稿で見たような、関係副詞 where のさまざまな脱規範的汎用性はその一例であると考えられるだろう。

参考文献

- Callies, Maecus (2013) “Bare Infinitival Complements in Present-day English,” *The Verb Phrase in English*, ed. by Bas Aarts, Joanne Close, Geoffrey Leech and Sean Wallis, 239-255. Cambridge University Press, Cambridge.
- Croft, William and D. Alan Cruse (2004) *Cognitive Linguistics*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Davis, Mark (2008-) *The Corpus of Contemporary American English* (COCA).

- Available online at <<https://www.english-corpora.org/coca/>>.
- Declerck, Rennat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*, Kaitakusha, Tokyo.
- Denison, David (1998) "Syntax," *The Cambridge History of the English Language, Volume IV, 1776-1997*, ed. by Suzanne Romaine, 92-329, Cambridge University Press, Cambridge.
- Garner, Bryan A. (2016) *Garner's Modern English Usage*, Fourth Edition, Oxford University Press, Oxford.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Mennye, J. (1785) *An English Grammar; Being a Compilation from the Works of Such Grammarians as Have Acquired the Approbation of the Public; Better Adapted, Both to Ease of the Maser*, Eighteenth Century Collections Online Editions, New York.
- Merriam Webster's Dictionary of English Usage* (1994), Merriam Webster, Incorporated, Springfield, Massachusetts.
- Michels, A. (1975) "Relative Pronouns in Time, Place and Manner Adjuncts," *English Studies* 56:6, 504-512.
- Murray, Lindley (1830) *English Grammar, Adapted to the Different Classes of Learners* (Cambridge Library Collection), Cambridge University Press, Cambridge (2014).
- Priestley, Joseph (1769) *The Rudiments of English Grammar: Adapted to the Use of Schools; With Notes and Observations, For the Use of Those Who Have Made Some Proficiency in the Language*. London. (Cambridge Library Collection) Cambridge University Press, Cambridge (2013).
- Quirk, Randolph, Sydney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman: London.
- Rissanen, Matti (1999) "Syntax," *The Cambridge History of the English Language, Volume III, 1476-1776*, ed. by Roger Lass, 187-331, Cambridge University Press, Cambridge.
- Rohdenburg, Günter (2003) "Cognitive Complexity and *Horror Aequi* as Factors Determining the Use of Interrogative Clause Linkers in English," *Determinants of Grammatical Variation in English*, ed. by Günter Rohdenburg and Britta Mondorf, 205-249, Mouton de Gruyter, New York.
- 八木克正 (2011) 『英語教育に役立つ英語の基礎知識 Q&A』 開拓社, 東京.

使用した辞書

Longman Dictionary of Contemporary English, 6th edition (2014); Longman,
London.

Oxford English Dictionary Online. Available online at <<http://www.oed.com>>.